



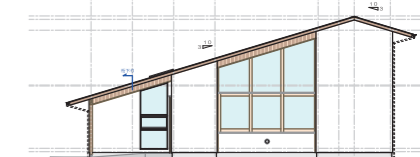
吹抜を介し中庭に面した木製サッシから室内に外光が注ぐ



キッチン前の通路スペースは水廻りまで広く伸びる暮らしの動線



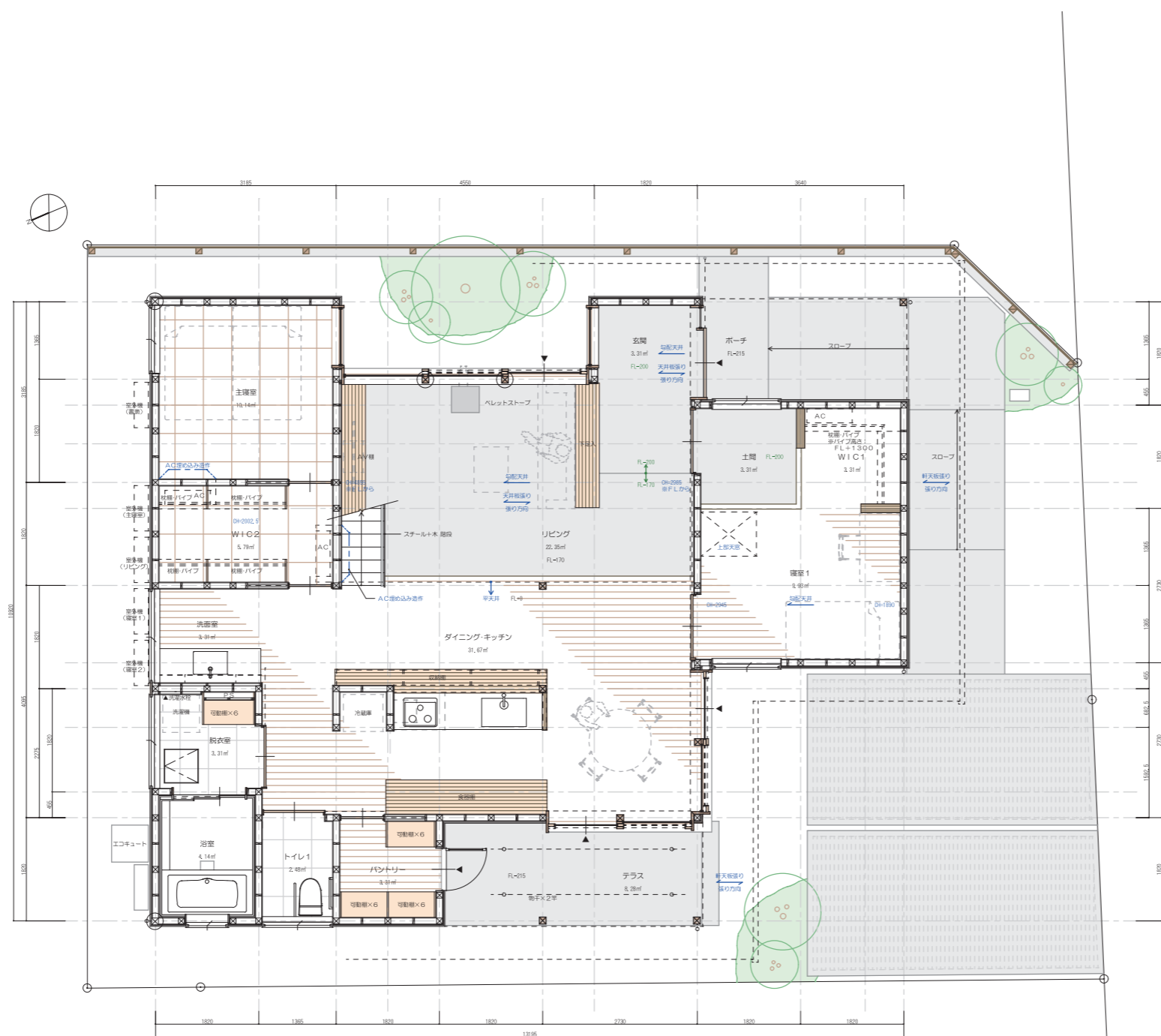
キッチンは車椅子使用対応のため足元はフルオープン



住居と木塀で囲われた中庭
玄関・リビング・寝室・書斎へとつながる



南面道路からプライバシーを確保するため
東西と天窓で採光を確保した寝室



1F PLAN S: 1/100

設計者として、最も重視したこと・工夫した点

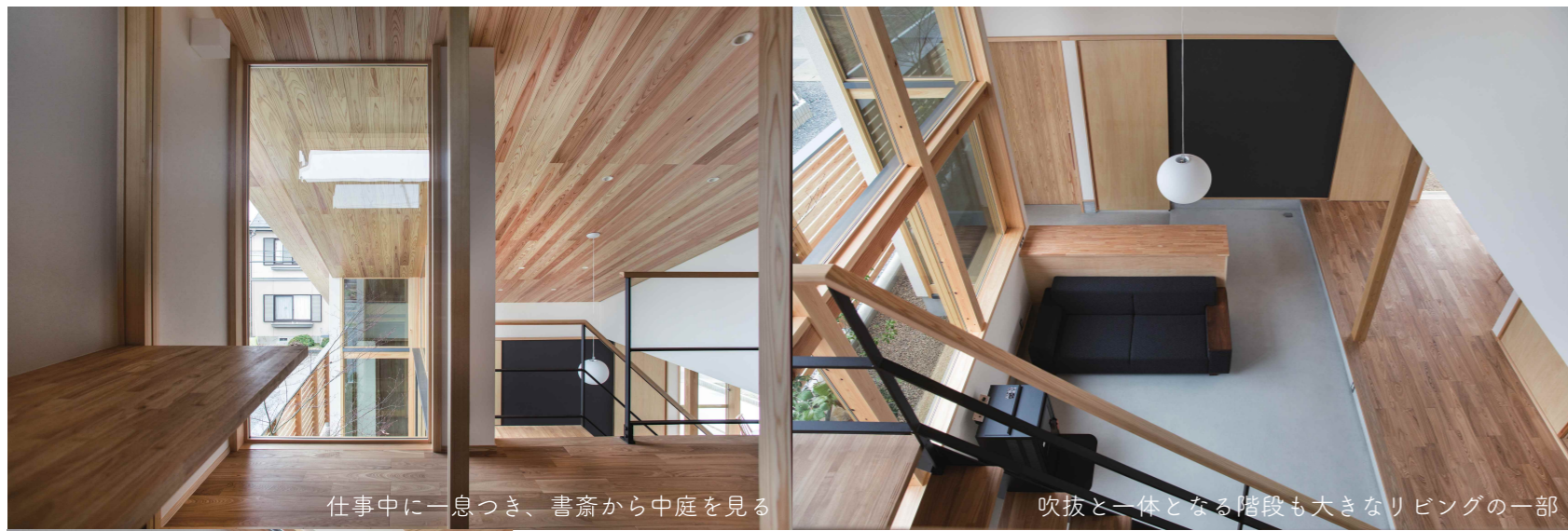
車椅子使用者である息子（小学生）のため、外部から内部への動線はもちろん内部移動にも配慮。そのためリビングは土間とし車椅子のまま利用できるようにしました。

床に上がってからも移動が楽にできるように広くまっすぐな動線で水廻りと寝室が行き来できるように計画。車椅子使用者の暮らしを考慮するという事は、高齢になっていくご夫婦自身の将来の暮らし方も楽にするということになります。広い動線スペースはリビングダイニングキッチンの一部として室空間に広がりを与えながら、行き来が不自由なく使用でき、老後のおおらかな暮らしが送れることができると考えました。

バリアフリーという考え方についても、土間リビングという、ダイニングキッチンから一段下がったスペースは室内に段差があることで、外部からはフラットに使用できるという利点になると考えました。階段というバリアはワークスペースや思春期を迎えた娘（中学生）の寝室を2階にするということ、階層でのエリア分けができるという前向きな捉え方をすることができました。バリアフリーと一概に考えず、段差をどう利用するかでだれにとっても使いやすい住宅を実現できたのではないかと考えられます。

また、昨今の新型コロナウイルス感染症による影響で在宅ワークが増えている状況で、そのワークスペースの在り方を検討した住宅でもあります。自宅で仕事をしながらも家族を隔てすぎず、必要な時にコミュニケーションが取れるような仕掛けとして透明ポリカ戸によって仕切られたワークスペースとしました。

子がリビングにいて、親がワークスペースにいる際、お互いの存在を別室にいながらも感じられるような環境は、子育て世代にとってのこれからの住宅の形なのではないでしょうか。



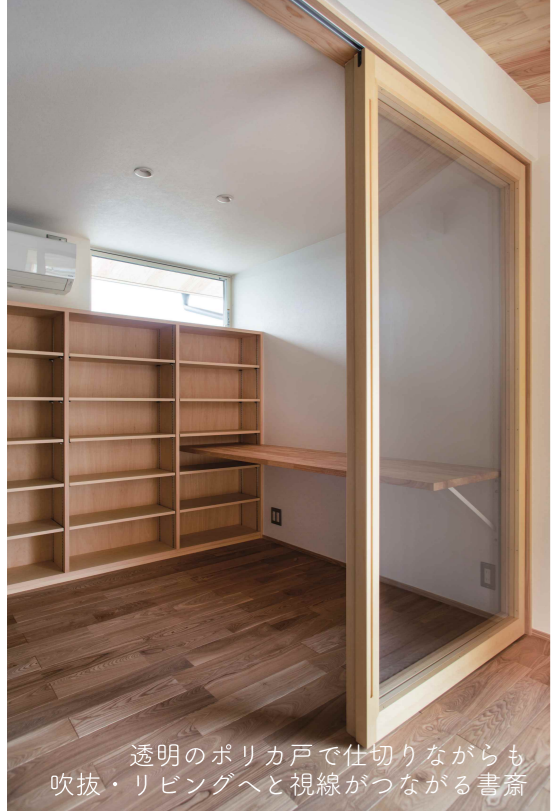
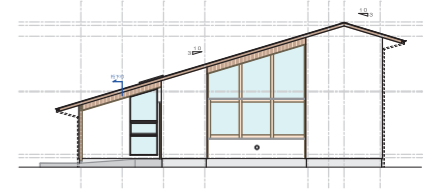
仕事中に一息つき、書斎から中庭を見る



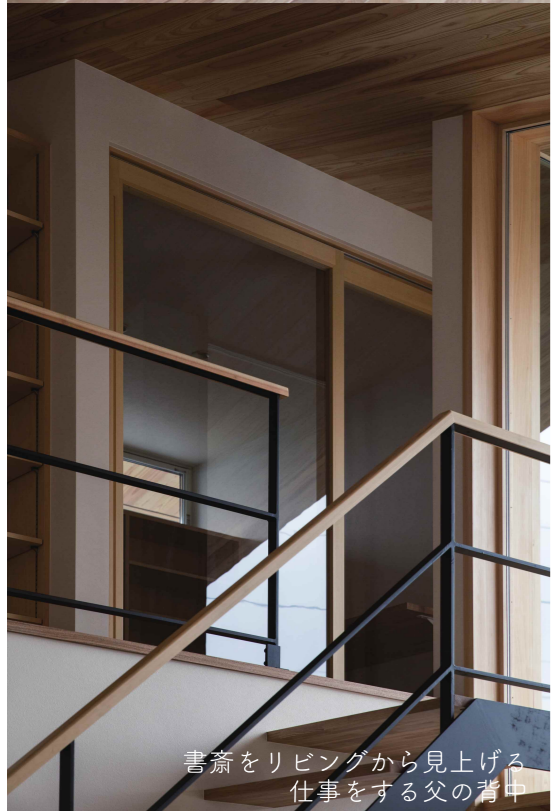
吹抜と一体となる階段も大きなリビングの一部



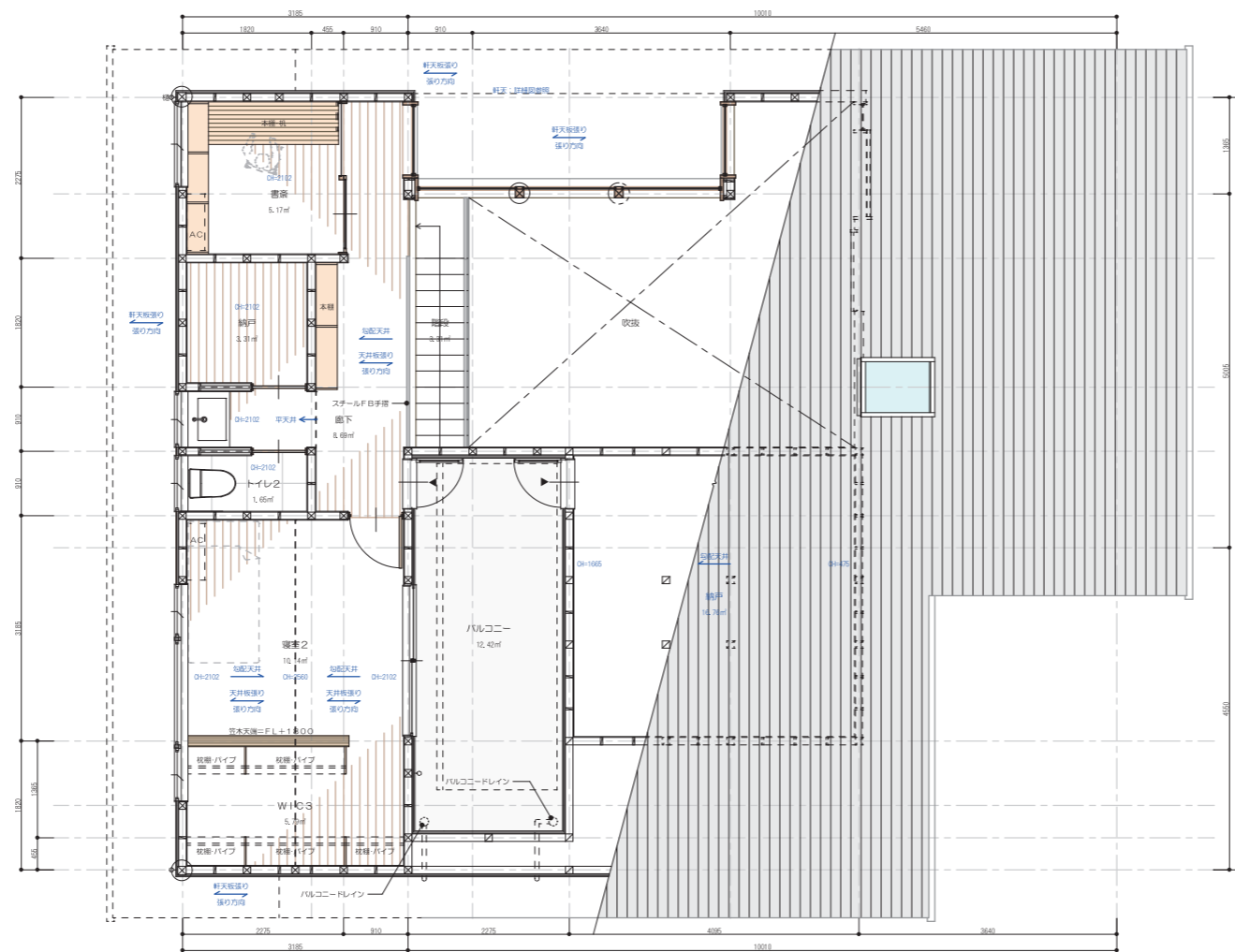
屋根の頂部の形をそのまま取り込んだ2階寝室2



透明のポリカーボネイトで仕切りながらも吹抜・リビングへと視線が繋がる書斎



書斎をリビングから見上げる仕事をする父の背中



2F PLAN S: 1/100

建築主として設計を依頼するにあたり、あらかじめ考えていたイメージや、設計者へ要望したこと

- ・車いすの息子や我々自身も老後になり、車いすや介護状態になっても快適に過ごせる住まい
 - ・階段をリビングや各部屋をどこにいても感じ取れるような家族の集える住まい
 - ・四季を感じることができる住まい
- 光や風を感じることができるよう、大きな窓やクリアガラスをふんだんに取り入れる。冬はペレットストーブを囲み暖を取る。
- ・木のぬくもりを感じ取れる住まい
- 照明や家具などのインテリアの色合いなどで生活感が出過ぎないようにシンプルにする
- ・家具を造作することでインテリアに統一感をもたせる
 - ・外部からの目を気にせずに庭の緑や空を感じられる住まい
- 4面を囲まれたバルコニーや視線を気にせずに眺められる中庭

完成した住宅に実際住んでみての感想

- ・吹抜の大きな窓から差し込む朝日や日中、植栽を通り抜け室内に落ちる木漏れ日が気持ちいい
- ・ダイニングのところのみに西窓を取り入れたので夕日のまぶしさがなく快適
- ・車いす使用を想定した段差が少なく幅広の廊下やドアは、窮屈感がなく開放的

すべてにおいてイメージ通りの住まいになりました。本当に感謝です。このあと迎える秋と冬が楽しみです。